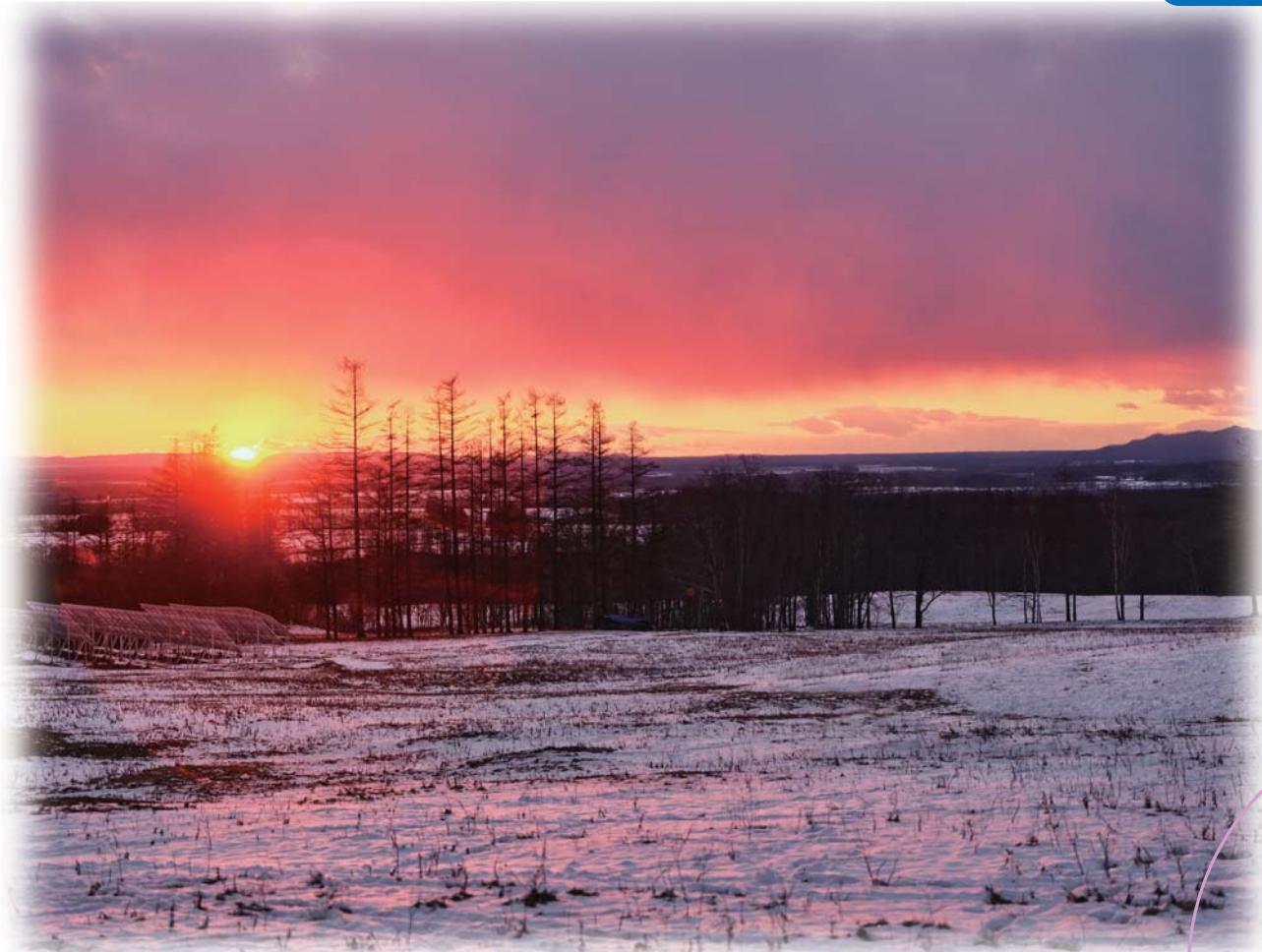


# 中販連

# だより

2022  
Vol.64

指定生乳生産者団体 中国生乳販売農業協同組合連合会 機関誌



## CONTENTS

- 年頭挨拶
- 中国地区牛乳・乳製品料理コンクール
- 令和4年度生乳受託販売契約について
- 令和3年度及び4年度生乳需給緩和に対する対策について
- 令和3年度生乳出荷実績等
- 事業経過報告

Chugoku Fresh Milk Sales-Agricultural Cooperative Association

## 新年のご挨拶 生産基盤を棄損させないために 生乳の安定販売を目指して

中国生乳販売農業協同組合連合会 会長 長恒泰治



新年あけましておめでとうございます。

生産者各位並びに関係者の皆様におかれましては御家族お揃いで新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は本会の業務推進に多大なご支援・ご協力を賜り衷心より厚くお礼申し上げます。

さて、私事で恐縮ですが昨年6月におかやま県酪農協の代表理事組合長に選任され、更に7月には本会通常総会において代表理事会長に選任されて以降、想定を超える業務にあわただしく取り組む日々を重ねることとなりました。就任後半年余ですがこの間におきましても皆様方のご理解とご協力を賜り重ねて厚くお礼申し上げます。

昨年の社会情勢を顧みますとパンデミックと化した新型コロナウイルスが変異したデルタ株が猛威を振るっていた第5派のさ中に世界のスポーツの祭典である東京オリンピック・パラリンピックが無観客で開催されました。

祭典終了後に感染者の拡大が懸念されました。ワクチン接種の進行に伴い9月下旬に向けて感染者の発生は急減し、2ヶ月余にわたる緊急事態宣言も解除されて徐々に経済活動に活況が戻り始めたのもつかの間今度はオミクロン株が主役となり新年を迎えてます。

酪農情勢においては、コロナ禍がもたらす牛乳乳製品の需要の減少を背景に生乳需給は緩和の度を強め、その象徴が乳製品（バター、脱脂粉乳）の過剰在庫として現れることとなりました。

生乳需給は、生乳生産において昨年度（令和2年度）から北海道に続き都府県も生産者の経営努力により、ようやく前年増が可能な生産基盤に到達しました。他方、需要の動向はコロナ禍が発

生した昨年度には牛乳や醸酵乳は巢ごもり需要の追い風を受けましたが今年度はその反動とも言える減少傾向に転じた上に、折からの需要の減少要因となっているインバウンド需要の消失や業務用需要の停滞が相まって増加した余剰生乳が乳製品へと仕向けられるのです。

このため乳製品の過剰在庫削減が新年度（令和4年度）に向けた喫緊の課題となることから国が調整役となり酪農乳業の協調による削減対策がとりまとめられ業界をあげた取り組みへの理解・協力が取り付けられようとしています。合わせて、この対策はコロナ禍を背景とすることから国に対しても支援を求めるとしてあります。

このような生乳需給を巡る課題に加えて、酪農生産現場は流通飼料を始めとする生産諸資材の高騰はもとより乾牧草類に至っては入手難や入手期日の遅延も生じる極めて厳しい経営環境に直面しています。

新年度の乳価情勢については乳業側も飼料事情には理解を示し更には牛乳等の製造コストにも上昇要因をかかえており、コスト圧迫への対応は酪農乳業共通の課題となっていますが生乳需給の緩和が交渉舞台の形成を阻んでいます。

しかしながら、酪農経営環境の悪化はようやく全国的に回復した生乳生産基盤に再び弱体化を招くことから対応に当たっては乳価及び政策支援の両面からの取り組みが必要とされます。

本会としましては、乳価問題を最優先課題に置き、指定団体間の連携を図り乳価交渉舞台の形成により消費者への理解請求、情勢、需要拡大策に酪農乳業一体となった取り組みを呼びかけなければなりません。

このような厳しい情勢下での年明けとなりましたが、本会の生乳生産基盤は都府県他ブロックに先んじて復元を達成し、新年度には生産目標とした年間30万tへの到達が見通されます。

この生産基盤を棄損させないために生乳の安

定販売に努めてまいります。

末筆乍ら、生産者各位並びに関係者の皆様の今年のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます

## 新年のご挨拶

### 新年を迎えるにあたって

中国四国農政局生産部畜産課課長 井 上 善 行



明けましておめでとうございます。

令和4年という新しい年を迎えるにあたり、一言、御挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、平素から酪農乳業行政の推進に御理解と御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症が広範囲に広がり、緊急事態宣言が発令され、イベント・催物の制限、リモートワーク、Web会議といった密集回避の動きが定着してきました。一方、ワクチン接種が広く実施され、その効果もあり、秋以降は感染者が減少傾向となりましたが、新たな変異株による感染が世界で広がっており、我が国においても引き続き、予断を許さない状況であります。

酪農・乳業界においては、緊急事態宣言に伴う外食の休業やインバウンド需要の喪失を受け、業務用乳製品の大幅な需要減となったことで、脱脂粉乳・バター等乳製品の在庫が高水準となりました。また、生乳生産が堅調である一方、飲用需要が伸び悩み、例年には緩和基調が続いているおそれです。

年末・年始において、生産者団体等におかれ

ましては、一時的に生産や出荷を抑制する取組みのほか、円滑な広域需給調整、乳業者と連携したクーラーステーションやタンクローリーでの繰越及び全国の乳製品工場でフル操業を行うなど最大限の乳製品処理に取り組んでいただいたと承知しております。

また、牛乳乳製品の消費拡大に向け、新商品の開発、牛乳等のフードバンクや子ども食堂への提供及び著名人を活用したプロモーション活動等にも取り組んでいただいております。

農林水産省においては、昨年12月からよしもと芸人と当省若手職員がコラボしたPR動画を流すなど、牛乳乳製品の消費拡大の取組を推進しております。

乳製品在庫への対応については、引き続き、関係者が連携・協調して削減に向けた取組を行うことが重要と考えておりますので、引き続き、御協力いただきますようお願い申し上げます。

最後に、新型コロナウイルスの感染が早期に終息することを願うとともに、今年が例年にもまして、皆様にとって特別な一年となることを祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

## 新年のご挨拶

### 新年を迎えるにあたって

一般社団法人 中央酪農会議 会長 中 家 徹



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

酪農家並びに関係の役職員の皆様におかれましては、日頃より、本会議事業への格別のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、昨年夏に発生した豪雨等により被害を受けられた方々には心よりお見舞い申し上げます。

さて、昨夏は一時的に猛暑の影響を受けたものの、乳用牛が比較的過ごしやすい気温だったことに加え、全国各地でこれまで取り組まれてきた生産基盤維持・強化対策の成果等により、生乳生産量は北海道、都府県ともに前年を上回って好調に推移しました。一方、消費の面では、コロナ禍での緊急事態宣言等の断続的な実施に伴う外食や観光業等への影響により、業務用需要の回復が遅れおり、飲用牛乳等向け処理量は依然低調となっています。

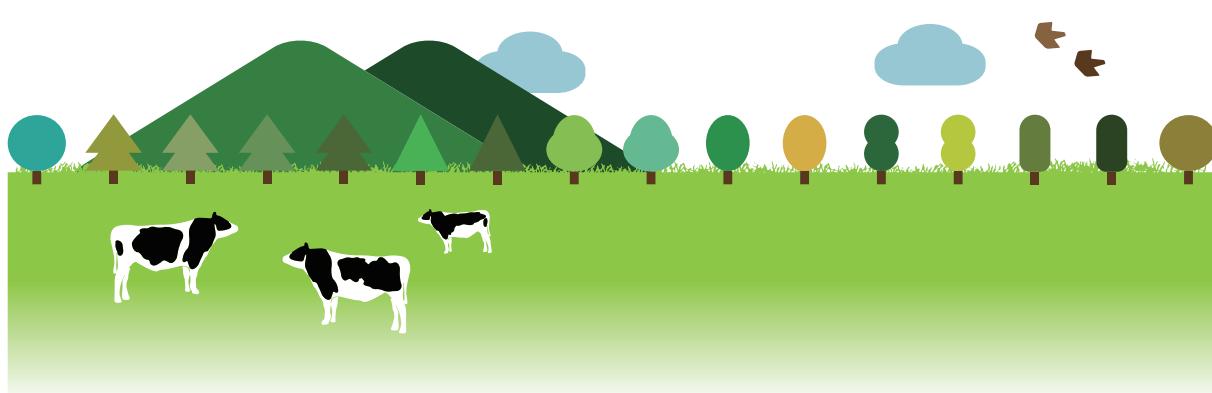
こうした結果、乳製品在庫が積み増す状況となっており、酪農経営の改善及び新たな政策方向に即した対応への阻害要因となっています。また、今年度末に向け、不需要期における処理不可能乳の発生も懸念されており、業界関係者

自らが消費促進に励むことが重要であることから、皆様におかれましても、牛乳乳製品の消費拡大への取り組みをお願いいたします。

本会におきましては、生産基盤を毀損させないことを前提とした出荷抑制や需要・消費を喚起することで、この難局を乗り切ることが重要なことから、①需給見通しの精緻化、②円滑な広域需給調整、③理解醸成活動並びに酪農関係者による牛乳・乳製品の利用拡大運動を通じた需給改善対策、を枠組みとして取り組みます。

また、本会役職員一同、指定団体及び会員組織の皆様と連携し、今後も酪農家の皆様が、引き続き「誇り」、「やりがい」、「夢」を持てる酪農産業を確立して行けるよう努めてまいります。

本年も酪農家及び酪農関係者の皆様方のご支援、ご理解の程、宜しくお願い申し上げるとともに、新しい年が皆様にとりましてより良い年となりますよう祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。



# 令和3年度 中国地区牛乳・乳製品料理コンクール<第11回>

令和3年度中国地区牛乳・乳製品料理コンクールを11月20日（土）に開催しました。同料理コンクールは牛乳・乳製品の知識普及と消費拡大を目的として平成23年度より毎年実施しており今回が11回目となります。今年は中国5県より1,657点の応募があり、各県で開催された牛乳・乳製品料理コンクールを勝ち抜いた各県2名、計10名の代表が料理のアイデアと調理の腕を競いました（内、3名は書類審査）。上位入賞者は次の方です。

最優秀賞	中国四国農政局長賞	槇野陽南 岡山県 鶏むね肉のクリーミー挟み焼
優秀賞	中国生乳販連会長賞	森尾朱音 鳥取県 秋の大山かぼちゃクリームパスタ
		江後和佳奈 広島県 カッテージキンパ（おにぎらず）



表彰式後の記念写真：出場者7名



鶏むね肉のクリーミー挟み焼

【苦労したポイント】  
鶏肉に挟む具に  
うまくとろみをつけること。



## 材料4人分

- 牛乳 ..... 100ml
- バター ..... 30g
- 小麦粉 ..... 大さじ1
- ピザ用チーズ ..... 100g
- パン粉 ..... 6g
- 塩こしょう ..... 少々
- エリンギ ..... 1パック
- ベーコン ..... 2枚
- 鶏むね肉 ..... 2枚
- ほうれん草 ..... 1袋(150g)
- 玉ねぎ ..... 1/2個
- ★付け合わせ★
- ベビーリーフ ..... 適量
- ミニトマト ..... 12コ

## 作り方

- ①ゆでたほうれん草を2cmの長さに切る。
- ②玉ねぎ・エリンギは薄切りにする。ベーコンは1cm幅に切る。
- ③フライパンにバターを入れて熱し、玉ねぎ・ほうれん草・エリンギ・ベーコンを入れて炒める。
- ④しんなりしたら小麦粉をふって、粉っぽさがなくなるまで炒める。
- ⑤牛乳・塩こしょうを加えて、混ぜながらとろみをつけてピザチーズを大さじ2入れて混ぜる。
- ⑥鶏肉は厚みを半分にして開き、包丁の背でたたきながら伸ばす。
- ⑦粗熱が取れた具を鶏肉の上にのせてはさむ。
- ⑧天板にオーブンシートを敷いて⑦をのせ、塩こしょうをふり、残りのピザ用チーズ・パン粉の順にのせ、170℃のオーブンで30分焼く。
- ⑨盛り付けができたら完成♪

# 令和4年度生乳受託販売契約について

令和4年度の生乳受託販売契約（以下「本契約」）につきましては、会員との間で令和4年1月末日を目途とするご契約をお願いいたします。

以下にお示しする経費及び中央拠出金等は令和4年度移行前の中販連臨時総会にて正式決定されますが、項目や単価につきましては生乳受託販売委員会及び理事会における協議・決定をいただいた後に総会上程案となるものです。

本契約の締結に当たり必須の説明事項となることから総会に先行してご案内致します。

## ○令和4年度生乳受託販売契約における販売経費等について

令和4年度における生乳受託販売事業の運営に係る経費等のうち、中販連の生乳共販事業については、従来の費目及び単価に変更の予定はありませんが、生乳需給緩和による脱脂粉乳の過剰在庫解消の対策として、全国の生産者団体と乳業者が同額の資金の拠出によって輸入脱粉（飼料用が中心）を国産脱粉に置き換えた場合に発生する差額の穴埋めを行い、脱粉製品20,000トンの削減（脱粉2万トン×輸入品差額400円/kg=80億円）に取り組む対策の枠組みが国を交えた検討会によって取りまとめられました。実施に当たっては生産者サイドには生乳1kgあたり約0.50円/kgの負担（新たな拠出金）の見通しとなっています。本件に関し中販連では、飼料高騰等のコスト高の現状に鑑み、拠出金の軽減を図るために中販連の内部留保金の充当を検討しております。また、本対策がコロナ禍の影響も受けていることから国の支援も要請中であります。

令和4年度に向けて本対策の内容が確定し実質の生産者負担が決定しましたら、改めてご案内させて頂きますのでご理解とご協力につきましてよろしくお願ひいたします。

### 1. 中国生乳販連の組織運営に係る経費

(1)中国生乳販連の組織運営費（A）【前年度同単価】

……生乳受託販売手数料

(2)生乳共販に係る業務運営費（B）【前年度同単価】

……生乳受託販売経費（集乳経費、送乳経費、CS経費、生乳検査経費）及び全国連再委託手数料

項目名	単価(円/kg)	前年比	対象用途	運用内容等
A 中販連販売手数料	0.260	±0	全生乳	組織運営に係る経費 (H21.10.1改正 0.1円引上)
生乳共販経費	集乳経費	3.113	±0	全生乳 会員への業務委託により輸送業者に支払い (H31.4.1改正 0.2円引上)
	送乳経費	1.914	±0	全生乳 中販連が輸送業者に支払い (H31.4.1改正 0.3円引上)
	CS経費	0.740	±0	全生乳 中販連指定のCSを所有する会員等に支払い (H31.4.1改正 0.1円引上)
	生乳検査経費	0.140	±0	全生乳 岡山県畜産協会(検査委託先)に支払い
	全国連手数料	実費精算	実費精算	中販連が再委託した生乳代金の0.3% 全生乳換算（試算値）：令和3年10月末実績÷0.11円/kg
	B 小計	÷6.017	+0.003	全生乳 想定経費※：5.907+0.11÷6.017円 ※令和3年10月末実績の全国連手数料を適用して試算

参考 A+B：全生乳換算（試算値）÷6.277円/kg…………①

(注) 消費税の取り扱い：A及びBは外税。生産者発乳量での計算。

## 2. 中国生乳販連が会員と連携して取り組む生乳生産基盤並びに生乳共販体制の維持強化対策、生乳需給変動対策、自然災害対策及び酪農理解醸成活動等の事業に係る経費

### (1)生産基盤活性化対策・生乳共販体制維持強化対策資金の運営 (C) 【前年度同単価】

- ..... ⑦生産基盤維持・拡大への対応
- ..... ①生乳共販体制の維持強化への対応
- ..... ⑦需給変動への対応
- ..... ①自然災害時の見舞金制

### (2)酪農理解醸成活動事業への取組 (D) 【前年度同単価】

項目名		単価(円/kg)	前年比	対象用途	運用内容等
C	生産基盤活性化・生乳共販体制維持強化対策資金(H30年度名称変更)	(0.120)	±0	全生乳	生乳共販体制維持強化並びに生乳需給変動対応費用
	自然災害時乳代見舞金制度	(0.050)	±0	全生乳	自然災害による生乳廃棄に対する見舞金制度(R3年度見舞金単価：税込110.66円/kg、風味不良による生乳廃棄対応
	生産基盤活性化・生乳共販体制維持強化対策資金	0.170	±0	全生乳	*科目間の流用を認める
	酪農理解醸成活動事業	0.050	±0	飲用等向け※	乳価値上げ等への酪農理解訴求及び牛乳需要喚起等に係る経費 ≒全生乳換算0.048円/kg

参考：全生乳換算（試算値）≈0.218円/kg……………②

(注) 消費税の取り扱い：C、Dは内税。乳業者着乳量での計算

中販連預り金(C)については、理事会で年度終了後に未使用金の取り扱いを協議、(D)の未使用金は返還する。

## 3. 中央団体が行う全国の酪農組織が連携して取り組む事業への拠出

### ……中央酪農会議並びにJミルクへの拠出金

#### (1)中央酪農会議拠出分

**【E～Hの項目は前年度同単価を仮置き】**

項目名		単価(円/kg)	前年比	対象用途	運用内容等
E 需給調整機能強化 全国支援事業		0.010	±0	全生乳	生乳供給情報システムサーバー維持・保守等
F 牛乳消費促進対策事業		0.100	±0	飲用等向け※	「MILK・JAPAN」事業。≈全生乳換算0.097円/kg
G 酪農理解促進広報事業		0.040	±0	全生乳	酪農教育ファーム関連活動及び消費者交流等、及びミルククラブ等を通じた情報発信
H BSE対策及び残留農薬対応酪農互助基金		0.010	±0	全生乳	ポジティブリスト管理物質定期的検査における被害農家の損害補填、BSE発生農家への経営継続等

参考：全生乳換算（試算値）≈0.157円/kg……………③

«新規拠出金» I 脱脂粉乳在庫削減 拠出金（仮称）	約0.40 (仮置き)	+0.40	全生乳	生処で取り組む脱脂粉乳2万トンの削減対策の生産者負担金 全国で約80億円の基金造成費用(生産者約40億円、0.5円/kg相当) *中販連は0.1円の組織負担を行うことにより生産者負担の圧縮を検討。
----------------------------------	----------------	-------	-----	--

(注) 消費税の取り扱い：E、F、G、H、Iは内税。乳業者着乳量での計算

#### (2) Jミルク拠出分

**【前年度同単価を仮置き】**

項目名		単価(円/kg)	前年比	対象用途	運用内容等
J 飲用等向け		0.050	±0	飲用等向け※	≈全生乳換算0.048円/kg
K 乳製品向け		0.020	±0	乳製品向け※	≈全生乳換算0.001円/kg

参考：全生乳換算（試算値）≈0.049円/kg……………④

Jミルクの実施する普及及び流通関連事業

(注) 消費税の取り扱い：J、Kは内税。乳業者着乳量での計算。

※上記(1)、(2)の中央団体の拠出金については、決定次第報告いたします。

## 4. 酪農政策施行に係る積立金の拠出金（事業参加者のみ）

**【前年度と同単価を仮置】**

項目名		単価(円/kg)	前年比	対象用途	運用内容等
L 加工原料乳等生産者経営安定対策		0.200	±0	乳製品向け※(事業参加者のみ)	加工原料乳価格の低落時における補填基金事業。 任意加入。

(注) 消費税の取り扱い：Lは不課税

◎本事業に係る積立金拠出は四半期単位。

## ○中国生乳販連と生産者との直接契約について

改正畜安法の施行に伴い想定される指定団体と生産者との生乳受託販売契約の直接締結問題について、中央酪農会議を中心に全国の指定団体との意見交換や、農林水産省及び弁護士からの指導・助言を頂きながら検討を重ねました。

その結果、乳質事故への対応等の営農指導等を含む指導関連業務全般について少人数の職員で業務に当たる当連合会では十分な現地派遣体制が取れないことから当該地域会員への委託方式による運用を契約内容の骨子とし令和3年10月1日開催の生乳受託販売委員会・理事会において承認されました。

詳しくは、当連合会までお問合せ頂くか当連合会ホームページに契約様式等を掲載しておりますのでご参照下さい。

中販連ホームページ：<https://www.dairy.co.jp/chugoku/#>

## ○令和4年度の生乳取引交渉について

令和4年度の生乳取引交渉に関しては、高騰する飼料価格や子牛等の副産物価格の下落状況を受け、令和3年10月1日開催の生乳受託販売委員会・理事会において協議を行いました。

生乳生産を巡る状況は、北海道では順調な増産が続き今年度は対前年比103%を上回り、都府県でも当初の前年割れの見通しが、8月から9月にかけての長雨で気温が低下したことによる生産への好影響等から前年増へと転じ、全国では102%超える増産見通しとなっています。

経営環境においては、配合飼料安定基金からの補てんはあるものの購入価格は上昇を続け、粗飼料に至っては価格高騰と共に現物確保が困難な状況にもあり、更に副産物価格の下落や燃料費等の高騰と相まって厳しい状況となっています。

一方、乳業側では、業務用需要の低迷に加えて、牛乳・発酵乳も昨年の巣ごもり需要から一転して販売不振が続き、コロナ発生前の消費水準をも下回る消費状況となっています。これから不需要期を迎える状況下で生乳需給環境はより厳しさを増しており、特に乳製品大手4社（雪印・明治・森永・よつば）においては、余乳処理で発生する脱粉・バターの製造数量が増え、在庫量が過去最高水準に達しており経営面に悪影響を及ぼしています。

これらの酪農情勢下においては、乳価値上げが必要な状況にあるものの、目前に迫る年末年始や春休みとなる年度末に予測される多量に発生する余剰乳への対応や過剰乳製品の在庫解消に見通しが立たなければ落ち着いた乳価交渉が行えない状況となっています。

また、緩和状態にある需給関係からは次年度の取引数量への影響も予測され、一時的な生産抑制への懸念から生乳買取り事業者への出荷に切り替える生産者の動きが生ずれば、生乳流通の混乱が予測されます。このように乳価交渉情勢に課題が多いことから指定団体間には乳価要求への慎重論を含め、見解の相違も生じています。

これらの状況を踏まえ、令和3年10月1日開催の生乳受託販売委員会・理事会においては、有額値上げが必要との認識で一致するものの、混とんとした交渉情勢にあることから要求単価水準や交渉時期等については全国的な状況を見極めつつ、その対応は理事会に一任する取りまとめとなりました。

管内の生産者の皆様におかれましては、乳製品在庫問題等生乳需給をめぐる現状へのご理解を頂きますようお願い申し上げます。

## ○年末年始・年度末の一時的な生乳抑制対策への取り組みについて

Jミルクの需給見通しでは、生乳生産が自然体で推移すれば、年末年始（12/21～1/10）において全国で約5,000トンの処理不可能乳（工場に入りきらない生乳）の発生を予測しています。廃棄処分がマスコミに取り上げられることになれば酪農乳業界においてはイメージダウンとなり乳価交渉への影響も心配されます。

処理不可能乳5,000トンへの対応については、生産現場に向けて一時的な生産抑制への理解と協力が求められており、その内容としては、駄牛・低能力牛の早期淘汰及び早期乾乳、乳房炎治療の実施や子牛への生乳給与等であり、協力していただいた生産者にはJミルクから協力金が支払われます。本対策の骨格は下表の通りですが、「生産調整」「減産」といった趣旨ではありませんので、経営への影響は最小限に留めながら一時的な対応ということでのご理解をお願いいたします。春休みとなる年度末は、年間で最も生産が増える時期であることから、年末年始同様に一時的な抑制への協力が求められる可能性があります。

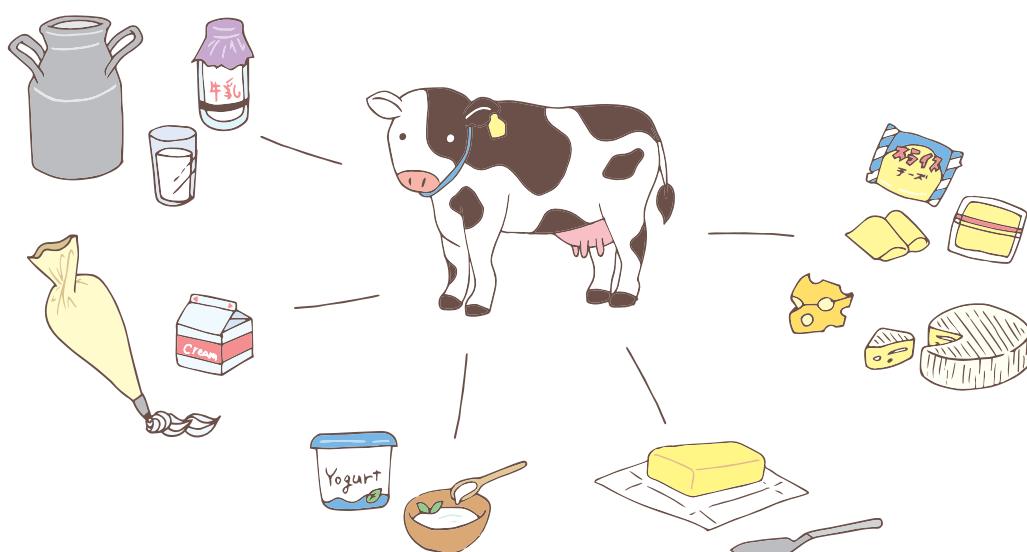
また、抑制対策の一環としてLL牛乳の製造により、過剰対策をかかえる脱粉・バターを製造しない取り組みも推奨されています。本会では、抑制対象期間である12/21～1/10の間に生乳の取引先でもある日本酪農近畿工場にて大型ローリー1台分（13.5t）のLL牛乳製造を行い、出来上がった製品（67,500本）を会員のご協力によりフードバンクや子ども食堂等への無償配布を通じた需要の創出を計画しています。

### Jミルクが実施する年末年始抑制対策への協力金支払い要件

◆11月下旬又は12月上旬の平均日量の多い期間を基準とし、12/21～1/10までの平均日量が基準期間と比較して101%以内の生産量に抑制した取り組みに対して協力金が支給されます。

- ・ 日量1トンまでの農家・・・20,000円以内
- ・〃 2トンまでの農家・・・30,000円以内（1トン未満は切り捨てで算定）
- ・〃 3トンまでの農家・・・40,000円以内（〃）

以下、規模に応じて加算あり。詳しくは、農協窓口又は中販連までお問合せ下さい。



【年末年始(12/21-1/10 : 21日間)  
のJミルク予測と抑制目安数量】

	Jミルク 予測	抑制目安 数量 ※5千トン の場合	抑制後 乳量	抑制率
ホクレン	236,453	2,930	233,523	-1.2%
東北	28,566	350	28,216	-1.2%
関東	59,047	730	58,317	-1.2%
北陸	4,174	50	4,124	-1.2%
東海	18,172	230	17,942	-1.3%
中国	16,757	210	16,547	-1.3%
四国	6,078	80	5,998	-1.3%
九州	33,829	420	33,409	-1.2%
計	403,076	5,000	398,076	-1.2%

【2020年度受託乳量と予算配分額】

	2020年度 受託乳量 (当初計)	予算配分 (うち年末年 始(約2/3))	うち年度末 (約1/3)
ホクレン	4,007,100	144,700	96,500
東北	504,685	18,220	12,100
関東	1,024,505	37,000	24,700
北陸	72,390	2,620	1,700
東海	320,814	11,580	7,700
中国	292,344	10,560	7,000
四国	106,197	3,830	2,600
九州	595,169	21,490	14,300
計	6,923,205	250,000	166,600
			83,400

酪農現場での協力要請と並行して、需要喚起の為、乳業者には不需要期の生乳使用率のアップや新たな商品開発、工場タンクの貯乳能力の最大限の利用等が呼びかけられています。Jミルクや中央酪農会議と連携して本会としても理解醸成活動による公告や販促活動、1日1リットル運動などの呼びかけをSNS等の情報媒体を利用して実施するなど業界を挙げた取り組みを行います。

中央酪農会議では、都府県の特定地域における加工（乳製品向け）発生の偏在化への対応するための都府県指定団体の共助対策としての加工リスク平準化緊急対策事業の予算拡充対応と円滑に乳製品を処理するための取り組みとして乳製品（脱脂粉乳に限定）保管事業を決定しました。

前者の平準化対策は、例えばコロナ影響により学校が休校した場合に、乳業から学乳向け生乳のキャンセルに伴い飲用化できずに加工処理された場合には、その産地の乳価に影響が出るため、昨年度からとも補償的に当事業が措置された経過があります。コロナ影響が今年度も続くと見通されることから令和3年度も当事業は継続され、年間を通じて都府県生産者による負担0.06円/kg（中国地域では、生産基盤活性化・生乳共販体制維持強化対策資金（以下、活性化資金）0.17円/kgの拠出分から中央へ支出）の拠出により造成された基金（1億8600万円）を原資に運営されています。

当事業の不需要期に当たる12～3月の運営については、去る令和3年11月22日に開催された中央酪農会議の理事会において、北海道における処理不可能乳の回避に向け都府県の乳製品工場の製造余力を利用した場合において、都府県の生産地域への乳価影響が想定よりも増え、事業財源が枯渇する事が予測されるため、同会議が正味財産6,000万円を取り崩し事業財源に充当する事が決定されました。

併せて、都府県加工施設で製造された乳製品（脱脂粉乳に限定）の保管に係る費用も発生することから都府県指定団体における令和3年度第4四半期の生乳生産量に対して0.04円/kgの拠出が新たに決定しました。この新たな拠出については中国ブロックで約296万円の負担となる見込みですが、令和3年11月24日に開催した本会理事会において令和3年度の活性化資金から中央への支出が承認されました。

## ○需要拡大のための理解醸成活動の実施について

生乳需給の緩和に伴い当面する年末年始において処理不可能乳の発生が懸念をされることから、酪農乳業界では消費喚起するための理解醸成活動を強化しています。

Jミルクでは、独自にWebによるリスクコミュニケーションを実施し、業界関係者への生乳需給情勢の情報共有や消費者理解に向けたツールの作成など行うと共に、乳業や県行牛乳普及組織等の賛助会員が行う不需要期の消費促進・拡大につながる新たな取り組みに対して、5,000万円の予算措置を行い、県域団体の活動に最大200万円の助成を行う事としています。

中央酪農会議では、消費拡大関連の事業として、今年度コロナ禍で開催出来ずに未使用となったイベント費用等から「牛乳等冬季需給対応事業」として5,000万円の予算建てを行い、年度末にかけて指定団体や傘下会員が実施するフードバンクや子ども食堂等への牛乳乳製品の無償配布を行う需要喚起対策に助成を行うこととしております。

### 【事業限度額】

単位：千円

地域	R3限度額		<参考> R2限度額
		前年差	
全国	50,000	0	50,000
北海道	7,152	112	7,040
東北	4,940	▲ 36	4,976
関東	13,605	▲ 103	13,708
北陸	2,331	▲ 5	2,336
東海	4,871	▲ 50	4,921
近畿	5,167	6	5,161
中国	3,778	92	3,686
四国	2,273	▲ 7	2,280
九州	5,883	▲ 9	5,892

注1:総予算を、人口比率40%、牛乳等向生乳販売量比率40%、定額比率20%で計算し按分。

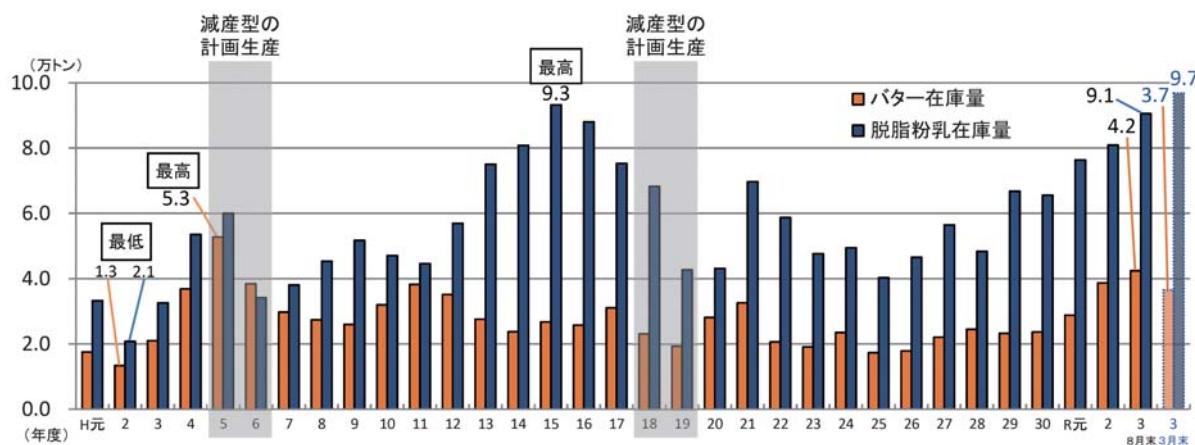
注2:人口は、H27年度国勢調査による人口集計結果を指定団体別に再集計した数値。

注3:牛乳等向生乳販売量は、令和2年4～12月の数量。

本会では、Jミルクと中央酪農会議の助成事業も活用しながら、毎年行っている管内地方紙への新聞広告の掲載（2月頃を予定）の中で新たな企画として、今回は、消費者の方には新聞広告内に設けたQRコードから専用ホームページ入って頂いて牛乳に関する謎解きクイズに答えてもらうほか、酪農家からのメッセージ動画を組み入れ、酪農乳業の置かれている状況への理解や牛乳乳製品の応援を呼びかけることとしています。その他、前述の会員にご協力頂くLL牛乳や乳製品等の無償配布も需要拡大への取り組みの一環です。

## ○令和4年度の過剰乳製品在庫対策について

(参考)バターと脱脂粉乳の在庫量の長期的推移 【表1】



注1:在庫量は年度末の数値。注2:青字はJミルクの令和3年度末予測値。

### 過去最高水準

バター 5.3万トン (平成5年度末)  
脱脂粉乳 9.3万トン (平成15年度末)



減産を招き、生乳生産基盤を毀損させることとなった

(平成15年度末の脱脂粉乳の在庫は、その後の対策の効果で削減が進んでいたものの、過剰状態の継続とバターの在庫積み増しも加わったことにより、平成18、19年度の減産型計画生産につながった。)

### R3年度の需給見通し

- 生乳供給量が、全国的に好調に推移する一方、コロナ禍で引き続き飲用等向け需要が低迷し、乳製品向け処理量は、年間でで3,514千t（総交付対象数量を64千t超過）の見込み。
- 脱脂粉乳、バターのR3年度末在庫量は、それぞれ9.2カ月、5.9カ月と、膨大な水準が見込まれており、こうした傾向は、令和4年度も継続する見込み。
- また、12月以降、不需要期については、引き続き生乳生産が好調に推移する一方、業務用需要を中心に生乳需要が低迷し、自然体では、「年末・年始」、「年度末」に処理不可能乳が発生する可能性がある。

R3年度需給予測の推移 【表2】

	R2年度 (実績)	R3年度(予測)						(単位: 千t)	
		1月時点		9月時点		1月予測差			
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比		
生乳供給量	7,389	7,461	101.0%	7,559	102.3%	98	1.3%		
北海道	4,136	4,223	102.1%	4,262	103.0%	39	0.9%		
都府県	3,253	3,238	99.5%	3,297	101.3%	59	1.8%		
飲用用向け	4,086	4,107	100.5%	4,045	99.0%	-62	-1.5%		
乳製品向け	3,303	3,354	101.6%	3,514	106.4%	160	4.8%		
チーズ向け	413	411	99.4%	434	105.2%	24	5.8%		
生クリーム等向け	1,195	1,232	103.1%	1,238	103.6%	6	0.5%		
脱粉・バター等向け	1,695	1,712	101.0%	1,841	108.6%	130	7.7%		

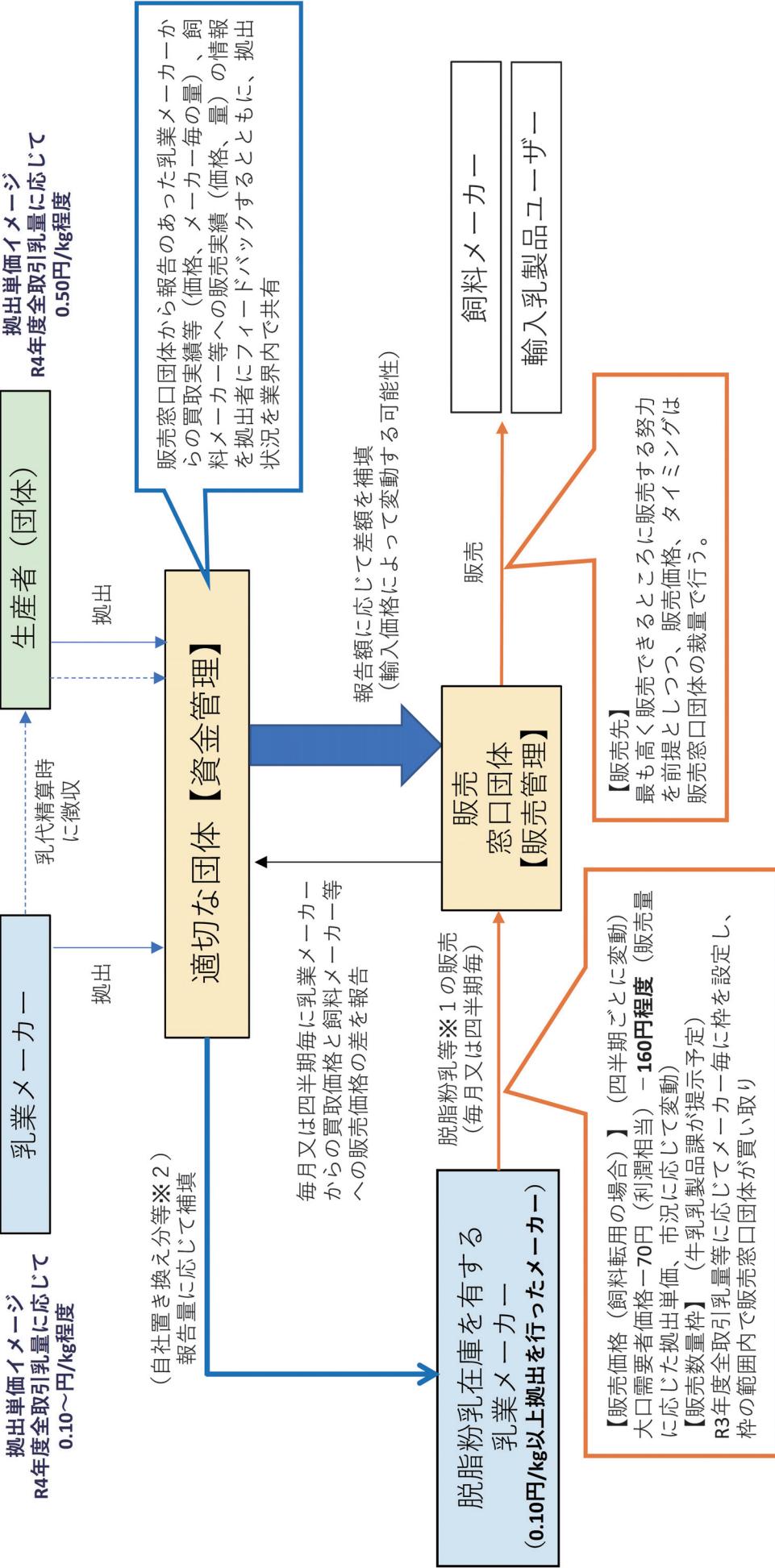
生乳生産は想定以上に好調

飲用等向け需要は低迷

補給金の交付対象外の乳製品向け生乳が発生する見込み

## 在庫対策のスキームのイメージ

※拠出の協力依頼は、生産の全国団体で最大限取り組む



(注) 額はあくまでイメージ。事業化に当たっては、拠出額と事業量のバランスの検討も必要であることに留意。

※1 脱脂粉乳等とは、脱脂粉乳に加え、脱脂粉乳の積み上がり抑制で製造した乳製品でかつ対策が必要なもの（ホエイ）を指し、この販売価格は乳業メーカーからデータの提供を受けて牛乳乳製品課が提示予定。

※2 自社置き換え分等は、数量は各社の枠の範囲内とし、データ提供等により、価格差、実績等が確認できる場合に限る。

Jミルクの生乳需給予測では、上記【表1】において脱粉・バターの在庫が過去最高水準になると見通されています。【表2】では、今年度の需給状況を表していますが、令和2年1月予測に対し、9月の予測においては夏季の長雨により生乳供給量は当初予測より98千トンの増加、一方、飲用向けの需要は想定以上に落ち込み62千トンの減少、その需給格差となる160千トンのうち約130千トンが脱粉・バターへの製造に回るものと予測されています。

Jミルク及び農林水産省は、8月以降より顕著となった生乳需給の悪化を受け、9月から乳業者と指定団体からの意見聴取の後に代表メンバーを選任し、乳製品の在庫対策に向けた協議の場を設置し在庫解消に向けた酪農乳業界が連携して取り組むスキーム（仕組み）作りを行いました。

### 在庫削減する規模感と費用等の検討

スキーム作りに当たっては、①適正在庫水準にする案、②脱粉に加えバターの在庫解消も行う案、③コロナ前までの水準に戻す案などが検討されました。基本的には、輸入されている飼料用脱粉の国産への置き換えに伴い発生する内外価格差の補てん等を対策の中心に置き、費用は生処で応分の負担とし、基金造成による運用となりました。スキームにおける数量と基金造成の規模等は令和4年度を実施期間とし、脱脂粉乳のみ約20,000トン分の削減、処分に係る費用は総額で80億円（20,000トン×400円/kg）で生産者サイド負担は約40億円で生乳1kgあたり約0.50円の負担となります。

実施の決定に向けては今年度末までに酪農・乳業が業界内での組織協議を行うこととなっています。

このため本会としての組織説明・協議を行い生産者負担のあり方については、正式に決まっておりませんが、今年度末となる令和4年3月頃までには、設定される事業内容を踏まえて決定することとしております。

### 国への支援要請

スキームの実施に当たっては酪農・乳業が連携して取り組む内容となっていますが、国の計画した酪肉近代化計画における国内生産目標は令和12年度に780万トンと設定されており、まだまだ増産しなければなりません。現状の需給悪化はコロナ影響によるもので、ある意味、災害でもあることから在庫対策については国への支援を要請しています。

また、配合飼料価格安定基金制度における財源の枯渇も懸念されていることから要請を行っており、令和3年度補正予算において、異常補てん基金に230億円の予算措置が決定されています。

令和4年度の酪農政策の決定は、12月24日頃とされ、再生産可能な補給金や集送乳調整金単価の設定や、乳製品在庫解消問題をはじめとする酪農振興政策が決定されますが、その内容については本紙次号において掲載いたします。

## 実績報告

### 1. 県別の生乳出荷戸数の推移

(単位：戸)

	H13年4月	H20年4月	H22年4月	H24年4月	H26年4月	H28年4月	H30年4月	H31年4月	R2年4月	R3年4月	R3年11月
鳥取県	288	215	187	168	146	135	125	116	113	107	104
島根県	260	171	158	145	126	108	103	96	88	83	83
岡山県	605	403	361	330	295	254	228	216	200	189	182
広島県	285	199	179	164	148	135	131	120	112	108	103
山口県	153	85	78	66	59	54	51	48	47	45	44
中国5県計	1,591	1,073	963	873	774	686	638	596	560	532	516

※平成30年3月以前の生乳出荷戸数には、岡山県のみ公共機関を含む。

※平成30年4月以降の生乳出荷戸数には、全県において公共機関を含む。

※令和3年11月時点の公共戸数は、鳥取県3戸、島根県2戸、岡山県4戸、広島県4戸、山口県3戸 の計16戸。

## 2. 生乳受託実績の推移

(単位: t、%)

R3実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計	構成比	戸数
<b>大山乳業</b>	5,266	5,410	5,012	4,885	4,844	4,839	4,993	4,927	40,175	20.4%	104
内農家	5,214	5,356	4,963	4,838	4,801	4,798	4,949	4,885	39,803	(99.1%)	101
内公共	53	53	49	47	43	42	44	42	373	(0.9%)	3
<b>JAしまね</b>	6,621	6,762	6,324	6,244	6,218	6,159	6,344	6,142	50,815	25.8%	83
内農家	6,594	6,736	6,301	6,221	6,197	6,138	6,325	6,123	50,633	(99.6%)	81
内公共	27	27	24	23	21	21	19	20	182	(0.4%)	2
<b>おか酪</b>	8,555	8,857	8,207	7,876	7,745	7,628	8,004	7,816	64,689	32.9%	182
内農家	8,388	8,686	8,046	7,723	7,589	7,478	7,853	7,673	63,437	(98.1%)	178
内公共	167	171	161	152	156	150	151	144	1,252	(1.9%)	4
<b>広島県酪</b>	4,093	4,269	4,035	4,012	3,963	3,828	3,863	3,699	31,761	16.2%	103
内農家	4,047	4,220	3,988	3,962	3,911	3,774	3,810	3,646	31,357	(98.7%)	99
内公共	47	49	47	51	52	54	52	53	404	(1.3%)	4
<b>山口県酪</b>	806	838	756	720	716	696	712	690	5,935	3.0%	30
内農家	797	829	748	713	710	690	705	681	5,873	(99.0%)	28
内公共	9	9	8	7	6	6	7	9	61	(1.0%)	2
<b>防府酪農</b>	447	440	403	397	393	386	408	396	3,269	1.7%	14
内農家	432	424	390	387	384	375	394	380	3,166	(96.8%)	13
内公共	15	15	13	10	9	11	14	16	103	(3.2%)	1
<b>中販連計</b>	25,788	26,576	24,737	24,134	23,878	23,536	24,324	23,671	196,644	100.0%	516
内農家	25,471	26,251	24,436	23,844	23,591	23,252	24,037	23,387	194,269	(98.8%)	500
内公共	318	325	301	290	287	284	288	284	2,376	(1.2%)	16
前年比	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計		
<b>大山乳業</b>	99.0%	98.6%	99.4%	97.8%	102.7%	102.3%	100.5%	101.1%	100.1%		
内農家	98.9%	98.5%	99.3%	97.7%	102.7%	102.4%	100.5%	101.2%	100.1%		
内公共	115.3%	119.7%	116.4%	109.4%	100.2%	94.3%	99.9%	88.4%	105.3%		
<b>JAしまね</b>	107.0%	104.7%	103.4%	101.0%	106.8%	106.4%	102.9%	103.3%	104.4%		
内農家	106.9%	104.7%	103.4%	101.1%	106.9%	106.4%	103.0%	103.4%	104.4%		
内公共	152.3%	116.4%	97.5%	87.7%	81.7%	89.8%	80.0%	81.8%	96.2%		
<b>おか酪</b>	99.8%	100.2%	98.9%	96.0%	101.4%	99.0%	96.7%	97.0%	98.6%		
内農家	99.7%	100.2%	98.8%	96.1%	101.5%	99.1%	96.8%	97.1%	98.7%		
内公共	103.9%	101.5%	99.8%	88.8%	97.3%	98.0%	93.5%	93.9%	97.1%		
<b>広島県酪</b>	113.0%	113.8%	112.8%	102.8%	105.0%	102.1%	99.5%	99.6%	105.9%		
内農家	113.3%	114.1%	113.2%	102.7%	104.9%	101.9%	99.3%	99.4%	106.0%		
内公共	89.8%	90.7%	90.2%	108.6%	114.2%	114.2%	108.1%	111.5%	102.8%		
<b>山口県酪</b>	95.7%	97.7%	96.8%	96.0%	103.0%	105.0%	101.1%	99.2%	99.1%		
内農家	95.2%	97.3%	96.3%	95.6%	102.8%	104.7%	100.7%	98.9%	98.7%		
内公共	163.1%	155.5%	160.2%	170.2%	138.9%	148.5%	159.4%	135.9%	153.2%		
<b>防府酪農</b>	103.6%	98.3%	98.2%	99.3%	99.0%	96.2%	97.4%	92.5%	98.1%		
内農家	103.8%	98.2%	98.4%	100.0%	99.3%	95.4%	97.1%	92.0%	98.0%		
内公共	97.4%	101.1%	91.9%	76.8%	85.8%	127.9%	104.6%	107.8%	98.5%		
<b>中販連計</b>	103.3%	102.9%	102.1%	98.8%	103.6%	102.2%	99.6%	99.8%	101.5%		
内農家	103.2%	102.8%	102.1%	98.8%	103.7%	102.2%	99.7%	99.8%	101.5%		
内公共	106.8%	104.3%	100.9%	95.2%	99.2%	101.1%	97.2%	96.5%	100.2%		

※実績値は、農家発乳量を使用。また、5県共に公共機関を含む。なお、出荷戸数は令和3年11月の実績。

## 3. 用途別販売実績の推移

(単位: t、%)

R3実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計	構成比
飲用 向	17,540	17,739	16,400	17,041	17,611	16,026	16,639	15,939	134,936	68.6%
学 乳 向	1,696	2,054	2,561	1,473	153	2,285	2,359	2,250	14,832	7.5%
醸 酵 乳 向	4,789	5,048	5,127	5,152	5,247	4,580	4,701	4,450	39,094	19.9%
生クリーム向	356	317	197	208	284	256	254	338	2,212	1.1%
チーズ 向	30	27	28	29	30	28	29	32	232	0.1%
加工 向	1,377	1,391	423	230	552	360	342	662	5,338	2.7%
合 計	25,788	26,576	24,737	24,134	23,878	23,536	24,324	23,671	196,644	100.0%
前年比	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計	
飲用 向	100.1%	95.2%	103.8%	103.7%	105.6%	102.5%	101.9%	98.4%	101.3%	
学 乳 向	257.0%	353.8%	100.9%	67.9%	20.4%	102.3%	94.1%	103.0%	108.9%	
醸 酵 乳 向	97.1%	93.6%	96.7%	96.8%	100.4%	94.9%	93.1%	97.4%	96.3%	
生クリーム向	108.8%	114.4%	89.3%	98.1%	143.6%	133.3%	117.3%	139.7%	117.2%	
チーズ 向	124.6%	109.3%	90.8%	85.3%	92.4%	88.2%	83.0%	90.5%	93.9%	
加工 向	91.6%	148.5%	126.0%	86.8%	355.6%	313.6%	119.0%	136.9%	130.8%	
合 計	103.3%	102.9%	102.1%	98.8%	103.6%	102.2%	99.6%	99.8%	101.5%	

※実績値は、農家発乳量を使用。また5県共に公共機関を含む。 ※農家発乳量とメーカー着乳量の差分は飲用向けで調整。

## 4. 生乳需給実績の推移(域内・域外)

(単位:t、%)

R3実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
域内需要	22,320	23,618	22,327	21,854	21,581	21,448	22,065	21,144	176,357
域外需要	3,469	2,958	2,410	2,280	2,297	2,088	2,259	2,526	20,287
合計	25,788	26,576	24,737	24,134	23,878	23,536	24,324	23,671	196,644
前年比	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
域内需要	106.7%	105.2%	102.3%	97.7%	103.3%	102.5%	99.6%	100.4%	102.2%
域外需要	85.5%	87.6%	100.0%	111.0%	107.0%	99.3%	99.7%	95.0%	96.3%
合計	102.9%	102.9%	102.2%	98.9%	103.4%	102.2%	99.7%	99.9%	101.5%
構成比	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
域内需要	86.5%	88.9%	90.3%	90.6%	90.4%	91.1%	90.7%	89.3%	89.7%
域外需要	13.5%	11.1%	9.7%	9.4%	9.6%	8.9%	9.3%	10.7%	10.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※実績値は、農家発乳量を使用。また5県共に公共機関を含む。※農家発乳量とメーカー着乳量の差分は域内外需要の構成比率で按分。

## 5. 令和3年度 基準乳価推移

(単位:t、円/kg)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
R3	受託乳量(t)	25,788	26,576	24,737	24,134	23,878	23,536	24,324	23,671	196,644
	基本乳価	113,8035	114,1949	115,9571	115,6062	114,0569	115,9551	116,1182	115,5398	115,1322
	成分加減算金単価	2,6170	2,5191	2,2884	2,1194	2,0493	2,3445	2,5994	3,0500	2,4498
	衛生的乳質加算金単価	0.1181	0.1345	0.1548	0.1925	0.1625	0.1583	0.1119	0.1110	0.1426
	衛生的乳質減算金単価	(0.2361)	(0.2690)	(0.3096)	(0.3849)	(0.3250)	(0.3166)	(0.2238)	(0.2221)	(0.2853)
	組合指導費単価	0.1181	0.1345	0.1548	0.1925	0.1625	0.1583	0.1119	0.1110	0.1426
	補給金等	0.5833	0.5833	0.5833	0.3002	0.3002	0.3002	0.2789	0.4731	0.4294
合計(a)		117,0038	117,2974	118,8288	118,0257	116,4063	118,5998	118,9965	119,0630	118,0113
R2	受託乳量(t)	24,976	25,836	24,227	24,433	23,040	23,037	24,416	23,717	193,682
	基本乳価	113,5430	114,0640	115,8813	115,7055	115,2872	116,3659	115,9555	115,5848	115,2752
	成分加減算金単価	2,5604	2,3809	2,2068	2,1420	1,9887	1,9678	2,5842	2,9082	2,3465
	衛生的乳質加算金単価	0.1192	0.1125	0.1265	0.1614	0.2317	0.2213	0.1543	0.1589	0.1594
	衛生的乳質減算金単価	(0.2385)	(0.2251)	(0.2531)	(0.3227)	(0.4634)	(0.4425)	(0.3086)	(0.3178)	(0.3187)
	組合指導費単価	0.1192	0.1125	0.1265	0.1614	0.2317	0.2213	0.1543	0.1589	0.1594
	補給金等	0.5320	0.5320	0.5320	0.1904	0.1904	0.1904	0.4463	0.4463	0.3863
合計(b)		116,6354	116,9768	118,6201	118,0378	117,4663	118,5240	118,9859	118,9393	118,0080
前年との比較(a-b)		0.3684	0.3205	0.2087	(0.0121)	(1.0599)	0.0758	0.0106	0.1237	0.0033

※実績値は、農家発乳量を使用。また共に5県の公共機関を含む。※成分加減算金単価には、ジャージープレミアムを含む。

※衛生的乳質減算金単価には、組合指導費を含む。

※表1から表4の各実績表において、端数処理により合計不一致の箇所あり

26	24	20	19	18	17	12	9	5	11	27	26	20	18	6	4	1	10	24	22	21	15	3	1	9	31	24	18	5	3	8
日	日	日	日	日	日	日	日	日	月	日	日	日	日	日	日	1月	日	月	日	月	日	日	月	日	日	月	日	日	月	日
第5回中販連監事会(後半)(岡山県)	中国地区第11回牛乳・乳製品料理「ンクール(岡山県)	第9回中販連理事会、第5回中販連監事会(前半)(岡山県)	第8回会員実務責任者会議(Web)	中酪情報共有会議(Web)	酪農業意見交換会、JミルクSDGs作業部会(Web)	中酪不需要期対応会議(Web)	Jミルク戦略ビジョン特別委、中酪需給会議(Web)	中酪品質向上委員会、Jミルク安全品質管理委員会(Web)	第8回中販連理事会、第一回中販連販売委員会(Web)	農水省畜安法改正説明会、中酪需給会議(Web)	中酪インボイス説明会、中酪需給会議(Web)	中酪実務責任者会議(Web)	指定団体長懇談会(柄木県)	第7回中販連理事会(Web)	酪農乳業意見交換会(Web)	Jミルク需給対応説明会(Web)	第7回会員実務責任者会議(Web)	第6回中販連理事会(Web)	第5回会員実務責任者会議(Web)	第5回会員実務責任者会議(Web)	中酪需給会議、第4回会員実務責任者会議(Web)	会員安全安心担当者、酪農経営総合支援事業委員会(Web)	中酪実務責任者会議(Web)	第5回会員実務責任者会議(Web)	第5回会員実務責任者会議(Web)	中酪需給会議、第4回会員実務責任者会議(Web)	会員安全安心担当者、酪農経営総合支援事業委員会(Web)	中酪実務責任者会議(Web)	第5回会員実務責任者会議(Web)	中酪需給会議、第4回会員実務責任者会議(Web)
(中) 事業経過報告 (令和三年八月~十一月)																														

※(Web)はweb方式による会議

発行 ● 中国生乳販売農業協同組合連合会  
 編集・発行人 ● 澤井正史  
 印刷 ○ 八六一三六一三七一  
 FAX TEL ○ 八六一三六一三七一  
 URL http://www.dairy.co.jp/chugoku/

〒700-0984 岡山県岡山市北区桑田町一番二〇号 岡山県農業共済会館四階